

# チリ中部沿岸地震による津波への対応

## 【概要】

日本時間平成22年2月27日（土）15時34分に、チリ中部沿岸地震・津波が発生し、翌28日9時33分に日本の太平洋沿岸に、大津波・津波警報が発令されました。四国地方整備局ではこれを受け、局長を本部長とする災害対策本部を設置し、職員約200人が出動、河川・道路・港湾等の巡視や国道の通行止めの準備等の措置を実施しました。



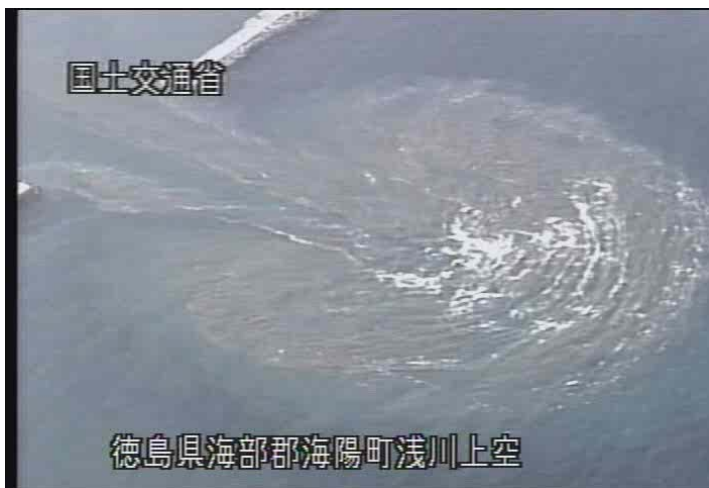
【災害対策室における対応状況①】



【災害対策室における対応状況②】

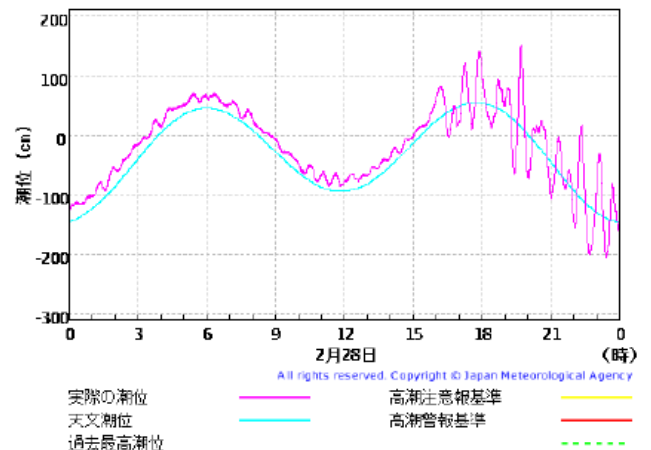


【施設の点検状況】



【四国地方整備局災害対策用ヘリコプターから撮影した浅川港における津波（引き波）】

潮位観測情報：須崎[港湾局]



【須崎港の潮位】

## 四国におけるチリ沖地震津波調査概要

### 1. 概要

平成22年2月27日に発生したチリ沖地震により津波が発生し、翌28日午後には日本の太平洋沿岸を中心に0.5m~1.2mの津波が到達した。四国においても、須崎港で1.2mの津波高を観測した他、四万十川等でも津波の遡上が確認されている。

この事象を受け四国地方整備局では、四国内の各大学と共同で緊急調査団を結成し、須崎港の現地調査及び、四万十川や須崎港などの津波データ、津波の映像、当時の現象をもとにした課題の抽出や今後の検討方法等について意見交換を行った。

### 2. 日時・場所

平成22年3月4日（木） 高知港湾空港整備事務所 須崎港出張所  
(現地調査は図-1のとおり)

### 3. チリ沖地震津波緊急調査団の構成

高知大学農学部教授	大年邦雄	(団長)
徳島大学大学院教授	中野 晋	(副団長)
徳島大学名誉教授	村上仁士	
徳島大学大学院教授	上月康則	
徳島大学大学院教授	村田明広	
徳島大学大学院准教授	西山賢一	
徳島大学大学院助教	富永数男	
愛媛大学教授	鳥居謙一	

四国地方整備局（企画部，河川部，港湾空港部，中村河川国道事務所，  
高知港湾空港整備事務所，高松港湾空港技術調査事務所）  
高知県須崎土木出張所



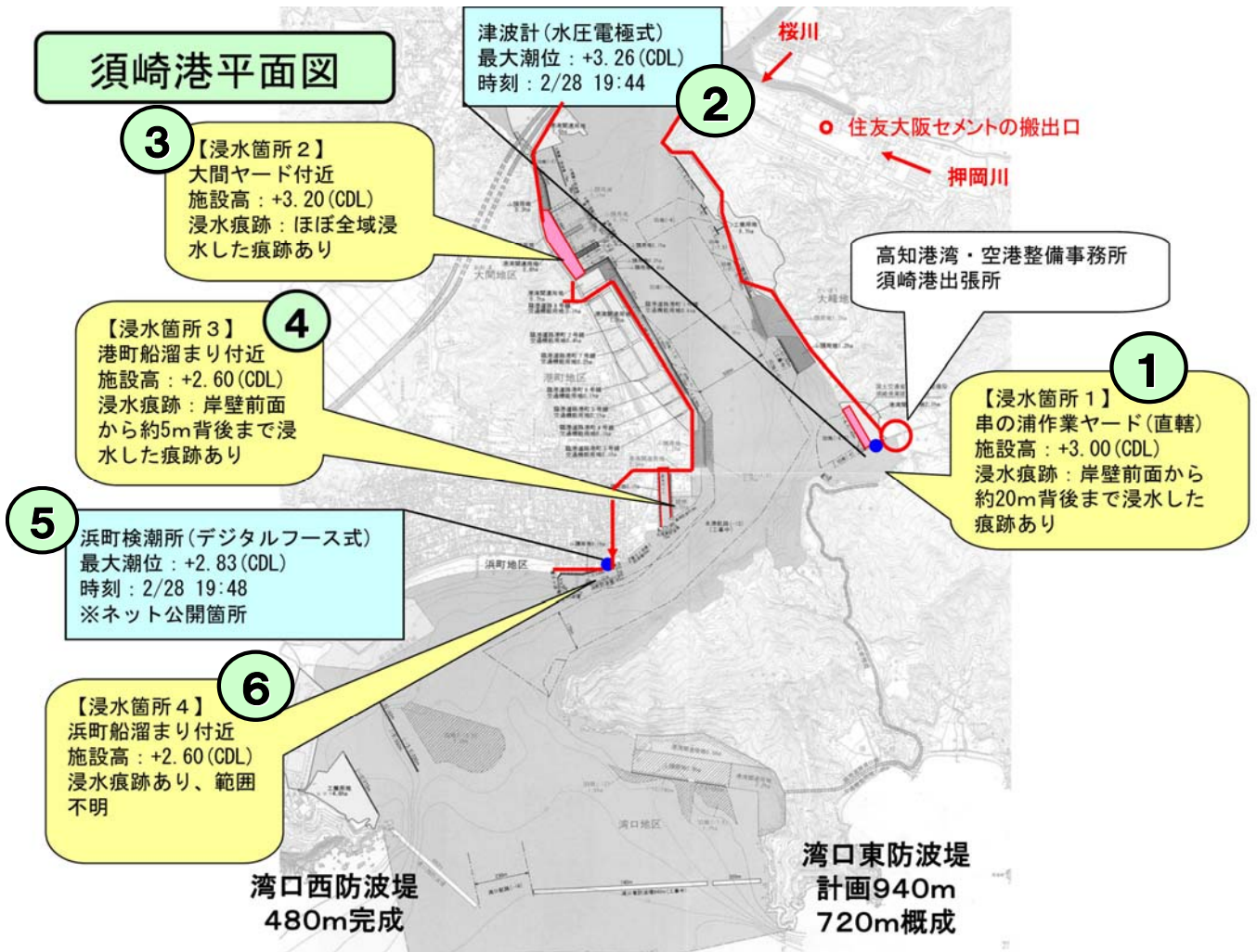
### 4. 調査概要

- 1) 2月28日に取得された津波データ、画像による意見交換
- 2) 須崎港内現地調査（図-1のとおり）
- 3) 課題の抽出及び今後の検討の方向性について意見交換

### 5. 調査団としてのまとめ

- 1) 国、大学、土木学会四国支部は、今後とも連携して取り組む。
- 2) 四国全域を視野に入れて検討する。
- 3) 今回の災害対応を検証する。
- 4) 物理現象としての津波をシミュレーションを入れて検討する。
- 5) 須崎湾については、今回どのような現象が発生したか、掘り下げて検討する。
- 6) 今後、成果は東南海・南海地震へ向けて活用していく。なお、その方法については今後検討する。

6. 現地調査位置図



(図-1)



# 広域合同演習実施：～ヘリコプター等による情報収集・配信訓練～ (四国東南海・南海地震対策連絡調整会議)

## ■演習概要

- ◆日時 平成22年2月12日(金)午前9時～12時
- ◆場所 高松サンポート合同庁舎13階 四国地方整備局災害対策室  
各機関のヘリポート基地～四国域、各機関災害対策室
- ◆参加機関 四国東南海・南海地震対策連絡調整会議26機関(リエゾン派遣21機関)  
オブザーバー機関8機関(リエゾン派遣6機関)
- ◆目的 被害映像の配信、映像を基にした情報の集約と共有の有効性の確認、並びに課題の抽出
- ◆参加人数 約60名

## ■被害映像の共有

四国地方整備局の映像共有システムを活用したヘリ映像の配信を行った。

## ■被害情報の集約・共有

映像から明らかとなる被害情報を関係機関で共有するために、情報の収集・集約・配信を行った。

### 情報の収集



### 情報の集約



広域被害情報図による情報整理

### 情報の配信



写メール等によって各災害対策本部へ配信



ヘリ映像の静止画と文字情報を電子メールで配信



### 広域被害情報図

## ■各機関の意見

- ・各機関による被害情報の集約は全体の状況が把握でき、非常に有意義であった。
- ・予想以上に情報収集ができた。情報共有する有効性が認識できた。
- ・リエゾンが参集できない場合の情報の共有方法についても検討する必要がある。
- ・集約した情報を次の活動にどのように活かしていくかが今後の検討課題である。

# 港湾BCP策定に向けて関係者会議を開催

— 港湾空港部 港湾空港防災・危機管理課 —

2月1日、東南海・南海地震の発生を想定した港湾における事業継続計画（港湾BCP）の策定を目指し、「災害時高松港活用方策検討関係者会議」の第1回を開催しました。会議は、国の関係機関、港湾管理者、物流を担う事業者等の担当者約20名により開催され、港湾BCPの必要性や策定イメージについて意識の統一を図りました。

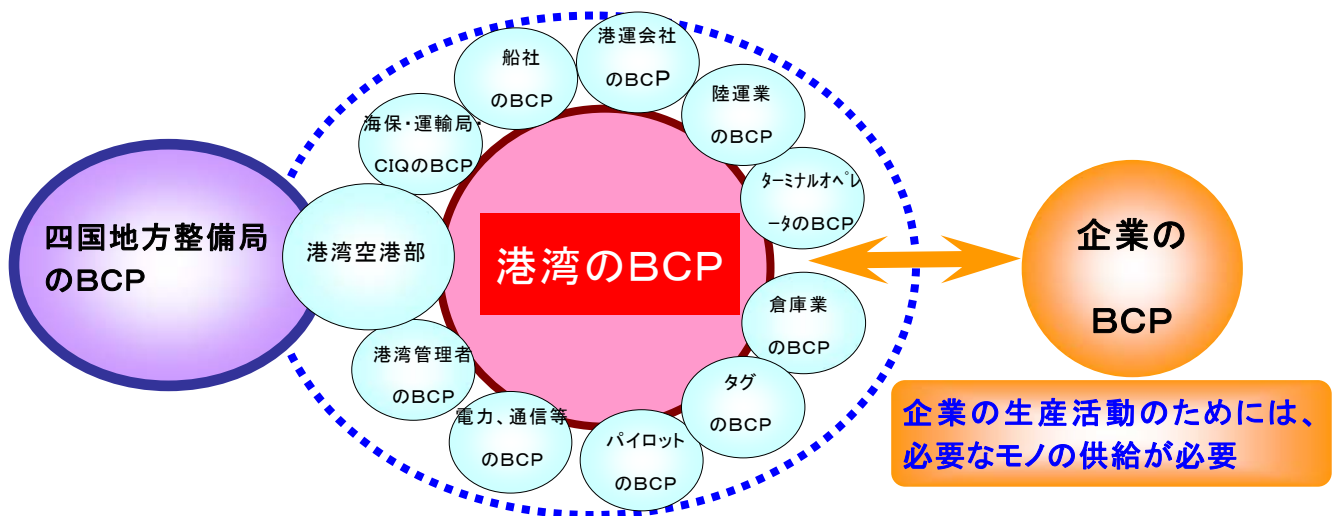


今後30年間に60～70%の確率で発生が予想されている東南海・南海地震では、港湾施設にも大きな被害が予想され、その機能に大きな支障が発生することが予測されます。災害発生時に港湾機能を継続するためには港湾施設だけでなく施設の運営管理に必要となる関係者の連携が不可欠です。このような事態に備え、港湾における災害時の機能の維持と早期復旧を目的とした港湾BCPの策定を、貨物取扱量が多く耐震強化岸壁を整備中の高松港をモデルに行うこととしました。

会議では、小平田港湾空港部長のあいさつのあと、事務局より高松港の現状やそれを踏まえた港湾BCPの必要性などの説明を行い、この取組を関係者が連携して進めることを確認しました。関係者からは、「耐震強化岸壁にもフェリーが着岸できるように多目的に利用できるように整備も必要。」、「津波による航路への漂流物流出の被害想定をしっかりとしてほしい。」等の意見が出され、今回出された意見をもとに関係者間での十分な議論や協議を行いながら進めることとなりました。

今後は引き続き「同関係者会議」を継続して実施し、平成22年度を目標に「高松港BCP（事業継続計画）」を纏めていきたいと考えています。また、この策定をもとに、関係各機関においても個々のBCP構築の体制を整えていくことが重要であると考えています。

## ■ 港湾BCP策定のイメージ



四国から平成21年度「手づくり<sup>ふるさと</sup>郷土賞」(国土交通大臣表彰)に  
2件が選ばれました！

◀ 選定案件 ▶

【一般部門】

「みなとオアシス交流広場」(徳島県 小松島市)

「むれ源平石あかりロード」(香川県 高松市)

【平成21年度受賞物件】



みなとオアシス交流広場  
(徳島県 小松島市)



むれ源平石あかりロード  
(香川県 高松市)

※詳しくは別添資料を御覧ください。

本施策は、四国圏広域地方計画「N o. 5 圏域の連携による発展に向けた地域力向上プロジェクト」の取組に関連します。

<同時発表>

- ・国土交通本省
- ・北海道開発局
- ・各地方整備局
- ・小松島港湾・空港  
整備事務所

<問い合わせ先>

四国地方整備局 企画部 広域計画課

課長 <sup>みやもと</sup>宮本 <sup>かおる</sup>馨  
課長補佐 <sup>みやたけ</sup>宮武 <sup>としお</sup>敏男

電話 087-811-8309 (広域計画課直通)

## 1. 「手づくり郷土賞」とは？

全国各地において、その地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な資源として再認識し積極的に利活用した、魅力ある地域づくりの成功例が多く見受けられます。

このような地域の魅力や個性を創出している、良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘・評価し、手づくり郷土賞として表彰することにより、好事例を広く全国に紹介し、個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が進むことを目指しています。

「手づくり郷土賞」は、昭和61年度に創設された国土交通大臣表彰で、平成21年度は24回目の開催となります。

## 2. 各部門について

- 【一般部門】 地域の魅力を創出している、社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果
- 【大賞部門】 これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含む成果

## 3. 選定について

応募案件は四国地方整備局でとりまとめの上、学識者等からなる「手づくり郷土賞」選定委員会の厳正な審査を経て、選定。

### 「手づくり郷土賞」選定委員会

委員長	西村 幸夫	東京大学教授
副委員長	酒井 孝	(社)雪センター理事長
委員	大村 哲夫	(財)港湾空港高度化環境研究センター理事長
	金安 岩男	慶応義塾大学教授
	田村 美幸	公共の色彩を考える会会長
	中村 良夫	東京工業大学名誉教授
	藤吉 洋一郎	大妻女子大学教授
	藤原 まり子	(株)博報堂生活総合研究所客員研究員
	増田 優一	国土交通省総合政策局長

## 4. 認定証授与式について

- ・「みなとオアシス交流広場」 ・「むれ源平石あかりロード」

いずれも、開催日時・場所について詳細が決定しましたら、別途お知らせします。

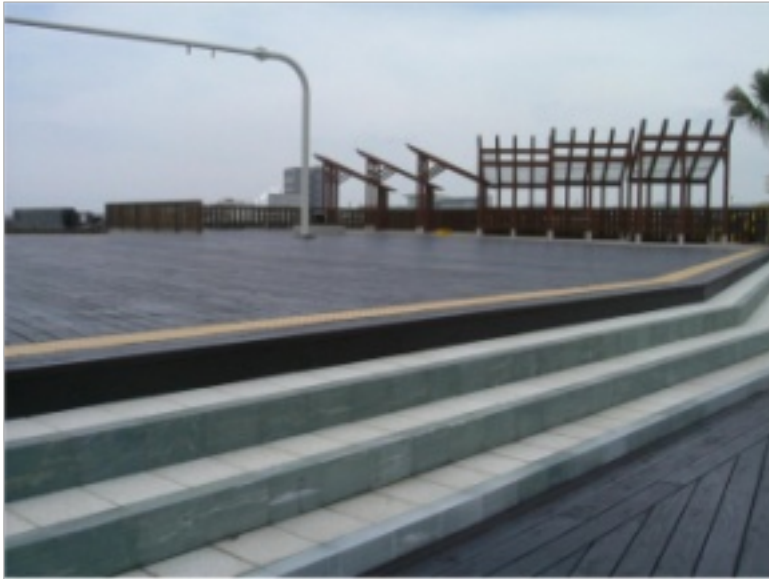
## 5. 選定箇所の紹介等について

パンフレットやホームページに掲載し、広く紹介予定。

## 【一般部門】

### みなとオアシス交流広場

(徳島県・小松島市)



みなとオアシス交流ひろば



イベント開催風景

みなとオアシス交流広場は、平成11年の旅客航路移転に伴い遊休化した徳島小松島港(本港地区)の港湾緑地空間の活用に向け、市民、行政、専門家、NPO等の協働により、ワークショップの手法を用いて整備されたものです。「特定非営利活動法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま」は、みなとオアシス交流広場を活用し、多彩なアイデア等を取り入れた、ビジターハーバーフェスティバルや、こまつしまうまいもん祭りなどを継続的に開催し、みなとの魅力を効果的に発信する活動に取り組んでいます。活動の成果として交流人口は、平成13年度のゼロから平成20年度に約13万人まで増加しています。



【一般部門】  
むれ源平石あかりロード

(香川県・高松市)



むれ源平石あかりロード



イベント開催風景

平成16年に結成された、「むれ源平まちづくり協議会」は、牟礼町の原風景を、源平の史跡文化と庵治石を中心とした石材産業文化と位置づけ、この二つの概念を基に牟礼・庵治街道沿線で事業を展開しています。同会は、地域の方々や地元の中学生と一緒に、史跡の保存活動やボランティアガイド活動、道並みや駐車場の整備についての検討会、地域のガイドマップの作成等を行い、石あかりロードの整備においては、地場産業である石材を活用した改修計画について提言を行っています。石あかりを灯し、史跡散策、石あかり散策を楽しむ「むれ源平石あかりロード」も、平成17年の誕生以来、継続的に開催されています。

# 平成21年度「手づくり郷土賞」<sup>ふるさと</sup>選定結果一覧

資料

## ■手づくり郷土賞(一般部門):17選

所在地	案件名	受賞団体名
北海道 旭川市	世代と世代をつなぐ架け橋「旭橋」 <sup>あさひはし</sup>	旭橋を語る会
北海道 紋別市	国登録有形文化財旧上藻別駅通所 <sup>かみもべつ</sup>	上藻別駅通保存会
福島県 福島市	歴史といで湯の“いいざか温泉”まちづくり活動	飯坂町周辺地域づくり協議会
東京都 調布市	22世紀の都市の森づくり	22世紀の森づくり・神代 東京都西部公園緑地事務所神代植物公園管理事務所
新潟県 長岡市	山古志「花々とともに進む心の復興」 <sup>やまこし</sup>	山古志花を楽しむ会
新潟県 長岡市	小さなムラにある大きな希望 ～「いつまでも住み続けられる法末」 <sup>ほうすえ</sup> を目指して～	法末集落
富山県 富山市	回船問屋群のある街並み 富山市岩瀬のまちづくり <sup>とやま いねせ</sup>	富山市
長野県 飯山市	菜の花による地域活性化(菜の花公園周辺)	菜の花さかせるかい 飯山市
長野県 阿南町	祭り街道と自然保護	阿南第二中学校と祭り街道の会
静岡県 浜松市	希少種の保全と里山の復元を通じて自然と人間の共生を目指す	椎ノ木谷保全の会 浜松市
滋賀県 高島市	未来へつなぐ清水と緑の郷づくり	川島区自治会
奈良県 生駒市	人にやさしい良好な住環境の創生に向けて	鹿ノ台自治連合会(ECOKA委員会)
広島県 尾道市	尾道 <sup>おのみち</sup> みなとまちづくり	社団法人尾道観光協会 尾道市
徳島県 小松島市	みなとオアシス交流広場	特定非営利活動法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま 徳島県
香川県 高松市	むれ源平石あかりロード	むれ源平まちづくり協議会 むれ源平石あかりロード実行委員会
福岡県 大野城市	どんぼの森公園	どんぼの森公園を育てる会
大分県 日田市	「水郷 <sup>すいきやう</sup> ひた」観光に寄与した花月川 <sup>かげつ</sup> の川づくり(千年あかり)	千年あかり実行委員会

## ■手づくり郷土賞(大賞部門):2選

所在地	案件名	受賞団体名
茨城県 下妻市	花と1万人の会「ちょっと素敵なまちづくり」	花と1万人の会
鳥取県 境港市	水木 <sup>みずき</sup> しげるロード	水木しげるロード振興会 境港市